

令和2年6月29日に文教福祉委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

報告事項

新型コロナウイルス感染症対策について

～内容～

新型コロナウイルス感染症対策の現状と今後について報告を受けました。

～質疑～

問：感染症専門家会議の位置付けはどうか。

答：基本的な方針や重要な判断をする場合に、専門的な見地からアドバイスをもらう会議である。そのアドバイスを受けて総合的に判断し、新型コロナウイルス感染症対策を行っていく。

問：総社市主催のイベントにおいて開催するものや中止するものがあるが、その判断基準はどうか。

答：判断する時期の国の基準や基本的対処方針等に照らし、必要に応じ専門家の意見を聞き総合的に判断している。市民の経済や社会活動を再開するという責務も負っているので、よく考えて判断していきたい。

問：感染症専門家会議の中で、どのようなことが議論されているのか。意見としては、どのようなものがあるのか。

答：意見としては、「新型コロナウイルスは、未知のウイルスであり正しく恐れていく必要がある。パンデミックであるが、パニックにはならないこと。高齢者や基礎疾患がある方には特に注意が必要である。ウイルスに対してゼロのリスクはあり得なく、これからは共存しながら経済対策をしていくことが必要である。」等である。

問：小中学生と保護者への意識調査はいつ行うのか。また、内容はどうか。

答：7月上旬にアンケート調査を行う予定である。保護者あての調査項目としては、子どものことで不安を感じていることは何か等を考えており、心理面の検証も行いたい。また、保護者としてどのようなことを望んでいるのか、オンライン授業や教育相談など具体的な項目について把握をしたい。その上で、今後の取組について検討し計画していきたい。

問：来年のそうじゃ吉備路マラソンの開催についてはどう判断していくのか。詳細な検討が必要と思うがどうか。

答：今年のそうじゃ吉備路マラソンの中止は、新型コロナウイルス感染症の拡大の初期であったので、非常に急な対応となった。来年度の開催については、新型コロナウイルス感染症対策の知見を十分踏まえ、関係者の方と相談していきたい。